



進めており、また行政・市民の協働に向けた仕組みづくりとして、サミット後に沿線6市自治体にグリーンネックレスに係る担当窓口を設けていただき、2000年12月に第1回の6市連携のまちづくり連絡会をセッティングしました。

## (2) 活動の目的

- グリーンネックレスの活動の目的は、
- ・JR中央線の連続立体交差事業により住宅地に出現する高架橋周辺を、都の景観基本軸（玉川上水や国分寺崖線）同様、地域に親しまれる景観・環境軸（＝「環境共生鉄道」）に整備すること。
  - ・実現に当たって、沿線地域に潤いを与える都市緑化活動、エコロジー産業の創出など様々なまちづくりとのネットワーク化による広域市民参加のまちづくり（＝「グリーンネックレス」）を進めること。
- にあります。

## II. 活動の内容

### (1) 2001年度活動のテーマと特色

2001年度では、特に、以下のようなことを意識して活動を進めました。

#### ・2000年度構想の深化

本年度検討テーマ「高架橋」「駅文化」「環境システム」等の裏付け調査、具体策検討すること。

#### ・活動ネットワークの強化

前年の市民活動とのネットワークをさらに深めると共に新たに大学等とも連携すること。

#### ・モデルスポットにおける実践

「まちかど花壇づくり」など、具体的な実験取り組みを開始すること。

また、活動の特色としては、以下のことが掲げられます。

#### 1. 「環境共生鉄道の創造」

高架橋とその周辺空間に景観・環境に配慮した仕掛けを施すことによって「壁」となる高架橋の影響を軽減し、むしろ高付加価値化を図ろうとしていること。

#### 2. 「まちの風土・歴史を再認識しながら空間づくり」

鉄道を縦断する様々な「みち」を調べることを通じ、まちの風土・歴史を再認識する取り組みをしようとしていること。

#### 3. 「まちづくり活動の連携」

他の類似活動との協力により、相互のフィールドワークの負担を軽減するとともに、交流を深めようとしていること。

#### 4. 「実験イベントの実施」

高架化前の状態から試験的に取り組む姿勢を行政・市民に示し、反応を問おうとしていること。



コミュニティスペースとしての農家の庭先販売所について、大学生の作品をもとにワークショップを開催。

(小金井まちづくりの会との共催)

## 5. 「若者層の取り込み」

次代を担う若者層に本活動をPRし、意見を聞くプロセスを設け、将来の活動者の取り込み育成を図りながら活動を進めようとしていること。

### (2) 活動経過

#### 1. グリーンネックレス情報マップの作成

連立事業に伴い景観や環境に配慮すべき場所の情報や、緑道・歩道ネットワーク化によって地域の景観・環境資源としての幅が広がる場所・ルートを図化などして「グリーンネックレスのまちづくり」を生活の視点から表現することに取り組みました。このため以下の調査を行いました。

##### ・まちの歴史を掘り起こす「ひと道」「みず道」さがし

生活の視点から鉄道と交差する軸に注目し、陣屋道など地域で由緒ある「人（ひと）道」や、かつての用水路・分水路や湧水など「水（みず）みち」を調べ、空間的に配慮した整備をすべき場所とそのあり方を調査・検討する。

##### ・沿線緑化の種地さがし

鉄道本体だけでなく、沿線及び周辺で緑化等により緑の幅が広がる可能性がある道や空地等を調査。

##### ・他の活動と相互協力するフィールドワークの展開

概して人的エネルギーが不足するフィールドワークを充足するため、上記調査の実施にあたっては、本地域で展開されている植生調査(例えば「タンポポ調査」(学芸大))などと連携し、相互協力する形で進めるなど、効率的かつ相互の活動交流を模索しました。

#### 2. 啓発イベントの実施

活動をPRし、具体的な取り組み、実験のイベント実施することとしました。

##### ・鉄道高架化に伴うまちづくりの市民意識啓発イベント「市民学園祭」の開催

将来の市民活動を担う若者層に環境まちづくり活動をPRし、また若者の意見をくむため、学園祭等で「市民学園祭」(2001年10月27日(土)、28日(日)於：武蔵境駅周辺(武蔵野市))を開催しました。特に、10月28日は「中央線最前線」と題し、午前に市民団体からの提案と行政担当者からのコメントをいただきました。午後のシンポジウムは「21世紀の鉄道・駅・まち」と題し、司会進行に田村和寿氏、コーディネーターに都市計画家伊藤滋先生、沿線4市長(武蔵野、三鷹、小金井、国分寺)と東京都建設局道路監、東京都商工会連合会副会長に出席いただきました。

##### ・環境共生鉄道を具現化する「まちかど環境花壇」づくりの模索

鉄道沿線付近に景観・環境に配慮したまちづくりを実践する



市民学園祭  
於：武蔵境駅前スイングビル

場を確保し、高架化を見据えた堆肥化装置、省エネ照明などエコ装置を使ったモデル実験を行い、市民の反応を問うことを模索しました。具体的には、市民学園祭の初日として、鉄道に面した武蔵境駅南口の暫定広場「境南ふれあい広場」を借りて、地域の環境軸の一つである、国分寺崖線の竹を主素材に会場を演出した「沿線楽座之市」を開催しました。

### 3. 沿線市民の声のまとめ

2000年から実施している「1万人アンケート」の分析を行いました。

### 4. 行政との協働模索

行政との協働を模索するための連絡会を開催し情報交換及び、当活動の理解と協力を求めていきました。東京都やJR東日本に対しても、市民学園祭への講演やパネラー参加を要請し、参加していただきました。



「沿線楽座之市」  
中央線武蔵境駅前  
境南ふれあい広場にて

## III. 活動の効果と今後の課題

### (1) 活動の効果

武蔵野の「武蔵境駅舎・広場・まちづくり協議会」や、国立の駅舎保存活用をテーマに活動する「赤い三角屋根の会」、地域の自然にちなんだ緑のドーム駅舎を提案した「武蔵野学研究会」など、鉄道高架化事業に直接絡んだまちづくり活動とのネットワークが新たに広がったことが大きな成果といえます。

### (2) 今後の課題

広域かつ、複数にわたる行政を初めとする関係機関、さらに市民活動のネットワークを恒常的に展開していくためには、相当強力な事務局と実行力のある執行体制の確立が求められるところですが、未だ脆弱な状況にあります。今後も毎年ねばり強い活動を続けることにより、継続的な市民活動の可能性を拡大していく必要があります。

### (3) 今後の活動

中央線三鷹～立川間の鉄道高架は平成20年度完成を目標に進められています。今後、事業スケジュールの進捗に合わせて年度毎に必要なまちづくり活動に取り組んでいくこととしています。また、行政その他、社会的により明確な立場での活動を展開していくため、特定非営利活動法人の認証申請中です。

(2002年2月18日受理)

高架化完成後も、環境をはじめ地域の各種まちづくりにも貢献する都市のストックとして鉄道施設、東西・南北のまちのネットワークが図られるよう、継続的に取り組んでいく予定です。